

2-①米粉用米の低コスト生産技術の確立（熊本）

① 活動期間：平成21年度～（1年目）

② 対象：(株)アグリともあい

③ 現状及びニーズの把握

食料自給率向上や米の新規需要創出が求められる中、米粉への関心が高まっており、県内においても米粉需要は増える見込みである。国の施策でも米粉用米は戦略作物と位置づけられ、従来の稲作技術で対応できることから農家として取り組みやすい環境が整いつつある。

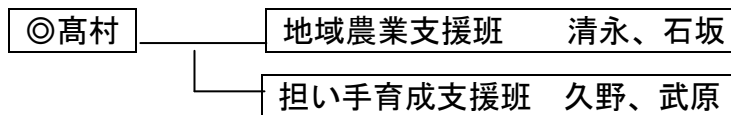
しかし、米粉用米の価格は主食用と比較して安価であるため、主食用米並の所得確保のためには低コスト生産への取り組みが必須であり、低コストかつ安定的な生産を図るために品種の特性等を含めた栽培技術の確立が急務であった。

④ 到達点における普及対象の姿

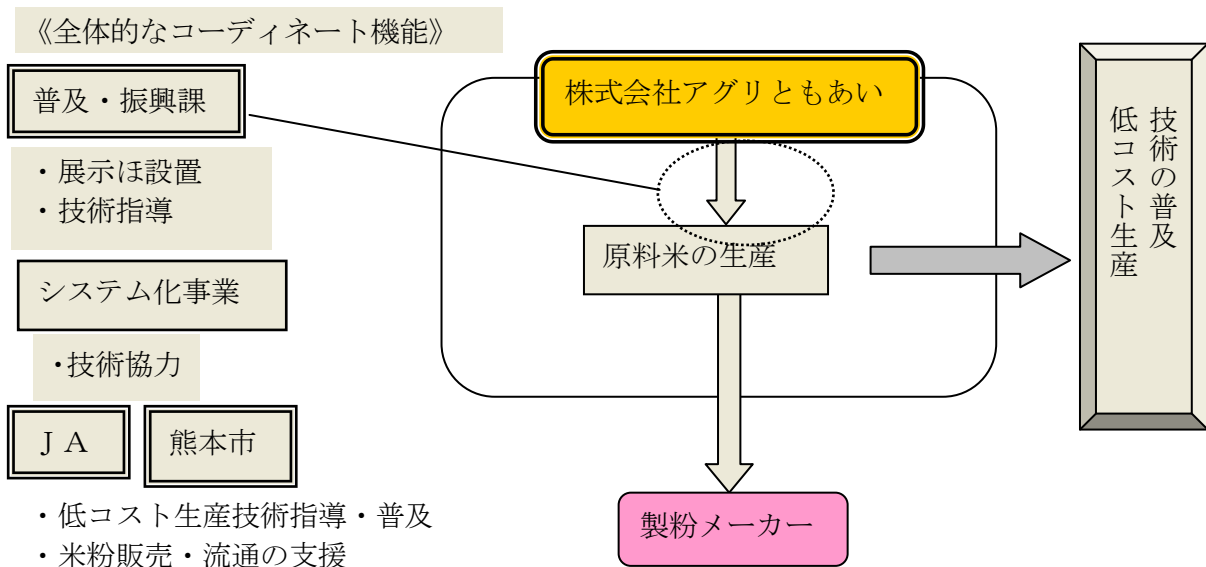
米粉用米の生産に適した品種の選定を行い、収量（粗玄米重）800kg/10aを目指す。

⑤ 普及指導等の内容

(ア) 課内の活動体制



(イ) 関係機関との推進体制



(ウ) 普及指導内容

米粉用米の生産に適した品種の選定及び低コスト生産技術（疎植栽培、施肥・防除を田植えと同時に処理、立毛乾燥等）について実証調査を行い、併せて所得確保のため収量（祖玄米重）800kg/10aを目指した。

⑥ 活動の結果及び成果

米粉用品種（ミズホチカラ、北陸193号）における、施肥体系、疎植適応性、田植え同時3作業の作業効率等について検討した結果、米粉用品種の多収性は確認できたが、作型、肥培管理に課題が残った。

疎植栽培、側条施肥、薬剤防除の同時作業では、収量、防除効果について慣行と同等の結果が得られ、省力、コスト低減に効果があることが実証された。



写真1 田植え・施肥・農薬散布を同時処理

写真2 米粉用品種(左・ミズホチカラ、右・北陸193号)

表1 籾数と収量

(ミズホチカラ)	一穂籾数 (粒)	籾数/㎡ (千粒)	坪刈り収量 (kg/10a)
実証区① 疎植	166	44.5	731
実証区②(追肥なし)			661
慣行区	132	34.4	727
(参考)			
北陸193号	128	35.4	779
あきまさり	93	28.5	590



北陸193号

ミズホチカラ

あきまさり

⑦ 残された問題点と今後の方向

今後は、米粉用専用品種における省力・低コスト栽培技術の有効性についてさらに検証を進め、熊本市に適した作型や肥培管理技術を確立する。



コメント

新規需要米として米粉事業に期待している。
 本年は試験作付けだったが、今後は肥培管理等の改善を行い、将来的に作付け面積を拡大していきたい。

(株)アグリともあい 代表 大津隆満氏